

フードバンク狛江 ニュースレター

「もったいない」を「いただきます」へ 連絡先：03-5497-0272 Mail：info@fb-komae.org

講演会・トークイベントに100名参加！

7月23日の講演会・トークイベントは100名を超える参加で盛会に終わりました。

フードバンクふじのくに事務局次長・ポポロの事務局長でもある鈴木和樹氏の「地域の社会資源と協働したフードバンク活動」の講演は“フードバンクの食料支援は行政や社会福祉協議会など、様々な支援の輪の中であってこそ生きてくることが”を学ぶ内容でした。



トークイベントは5団体から活動報告と課題を話してもらいました。

「地域の活動が解るよい機会になった」との感想も聞かれ、アンケートは50名の方より回答、多くの方に好評の感想をもらいました。今回来られなかった方・団体員を含め「参加された皆様とこの地域でフードバンクを活かせる活動を」と決意する機会になりました。ありがとうございます！

10・16 世界食糧デーに市庁舎でフードドライブを開催！

世界食糧デーを知っていますか？

世界で食べられるのに廃棄される食糧は13億トン、一方食糧不足で8人に1人が飢餓状態とされています。この問題を考える日として国連が1981年に制定しました。日本の食糧廃棄問題も深刻です。食料自給率は39%と低いのに632万トンの食品が2兆円かけて廃棄される一方、7人に1人の子どもが相対的貧困状態で生活していると言われています。

世界食糧デーの10月16日から18日の3日間、フードバンク狛江は狛江市庁舎ロビーで市民にフードドライブ（食品寄贈）を呼びかけ、食品ロス問題を一緒に考える機会にしたいと企画しました。皆さんも是非ご参加ください！

■今後のフードドライブ予定は（フードバンク狛江の定番！）■

10月1日ボランティアの集い（西河原公民館）入り口付近、にて

10月7日くらしフェスタに参加します！フードドライブとポップコーン販売をやります！！

活動報告

- ・6月6日
2017年度第一回理事会
- ・6月11日
こまエコまつりでフードドライブ45kg集まる
- ・6月21日
狛江市と食糧支援に関する協定締結
- ・6月25日
ボランティア会議
- ・7月6日
校長会で夏休み緊急食糧支援企画を提案
- ・7月11日
こまえ正吉苑にフードドライブ用ケース設置
第二回理事会
- ・7月16日
ボランティア会議
- ・7月23日
講演会&トークイベント
- ・8月8日
第三回理事会
- ・8月21日
こまえ苑にフードドライブ用ケース設置
- ・8月22日
福祉相談課・こまYELLと三者協議開催

フードドライブ用ケースの設置が始まりました！

もう、寄贈食品が入り回収にも行っています！



市民がいつでも食品を寄贈できる常設フードドライブをと、狛江社会福祉協議会の声掛けで「こまえ正吉苑」から設置の申し出があり、「こまえくぼ」に続き2か所目のフードドライブケースを設置できました。本当に有難い！周辺の町内会にも働きかけて下さり、すでに回収も始まりました！さらに、こまえ苑でも検討していただき、3か所目の常設フードドライブを開設できることになりました。お近くの皆様、食品寄贈はこちらへも宜しくお願いします！

- こまえ正吉苑 西野川 2-27-23
TEL：03（5438）0555
- こまえ苑 岩戸南 4-17-17
TEL：03（3489）2404
- こまえくぼ 1234
和泉本町 1-2-34
TEL：03（5761）5556



【他都市からのSOSの声を聴いて…理事長コラム（田中妙幸）】

フードバンク狛江に他都市から緊急支援要請が入りました。「体を壊して働けなくなり2日何も食べていません。連絡したフードバンクからは食品を取りに来てと言われたが交通費がありません…。来月にはやっと生活保護になれるので数日食べるものを送ってもらえませんか？」との電話です。「フードバンク狛江は、地域密着で市の困窮相談窓口を通じ支援している方は狛江市民が中心…。他都市からのSOSには緊急支援として1回だけで良ければ送ることはできます…。」とその日のうちに宅配便で食品を送りました。翌日「食品が着いた」と電話が、その方から事情を聞くことに。「吐いたりして体調が悪く職場へ行けないので、生活保護の申請をしに…でも若いから就労へと言われて苦しかった。弁護士同行でやっと生活保護支給に、手のひらを返したようだった。もう死ぬしかないって鬱にもなった。届いた食品でやっと今ホッとしています。」と話されていました。聞けば仕事の溶剤で体調を崩され「それって労働災害ですね?!」と聞くと「派遣ですから…」との返事「この仕事はもう無理、仕事辞めて大分体調は回復して来ました。」とのことでした。

派遣労働でも労災は申請できますが認定を勝ち取るのは傷ついた労働者一人の力では困難な道が待っていることでしょう。困窮しているとき食料支援で一息つけて、支援が役に立ち本当に良かったと思います。他方でフードバンクはある意味、怒りの矛先の受け皿にもなるのかなと思いました。フードバンクは必要とされているけれど、労働災害を防いだり労働者が簡単に使い捨てにならないような社会を創っていかねば解決しない問題だと思わずにいられない話を聞かせてもらいました。